

1

(1)	イ	(2)	エ	(3)	ア	(4)	イ	(5)	ウ	(6)	ア
(7)	イ	(8)	エ	(9)	ア						

2

(1)	C	(2) ①	イ	②	ウ	③	オ	(3)	オ
(4) ①	イ	②	ア	③	イ	(5)	ウ	(6)	イ

3

(1)	ア	(2)	ウ	(3)	エ	(4)	イ	(5)	ウ	(6)	E
(7)	エ	(8)	イ	(9)	ウ						

4

(2) 順不同完答

(1)	ウ	(2)	ア と エ	(3)	イ	(4)	ウ	(5)	アブラムシ (アリマキも可)
(6)	ア	(7)	イ	(8)	エ				

[配点] 1~3 : 各 3 点 × 28 = 84 点  
 4 : 各 2 点 × 8 = 16 点 (合計) 100 点

1

(5) 暖かくなると、ソメイヨシノやウメは南から順に開花する。

ウメの開花日では、1月31日（鹿児島市）→2月10日（大阪市）→4月22日（函館市）となる。

(6) 寒くなると、イチョウは北から順に落葉する。11月24日（函館市）→12月3日（大阪市）→12月6日（鹿児島市）

(8) ヤマツツジの開花日は4月～5月、スイセンの開花日は1月～3月（函館市で4月ごろ）、ススキの開花日は8月～9月である。

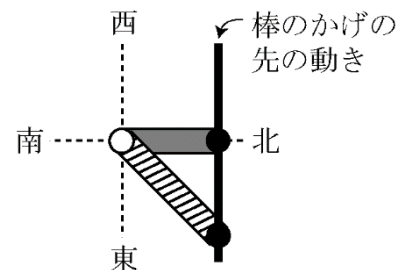
(9) 暖かくなると、アジサイは南から順に開花する。5月29日（鹿児島市）→6月7日（大阪市）→7月15日（函館市）

2

(3) 午後3時のかげは北東に向いており、春分の日のかげの先はまっすぐに動く。（右図）

(5) 春分の日のお陽は日本のどこであっても真東からのぼって、真西に沈む。鹿児島市の方がお陽の南中高度が高くなるのでウとなる。

(6) 春分の日から7か月後は10月（秋分の日～冬至の日の間）になる。10月のお陽は真東より南側から出て、真西よりも南側に沈む。



3

(3) どんな形でも、全体の体積は変わらない。

(4) 空どうがあるため、全体の体積が大きくなる。

(5) 空どうにねん土をつめこんでも、全体の体積はDと変わらない。

(6) あふれた水の体積から考えて、体積の大きさの順はE>G>Fとなる。

(7) E～Gで同じ体積あたりの重さ（すなわち密度のこと）を比べると、重さの順（密度の大きさの順）はF>G>Eとなる。

H～Jはそれぞれ同じ体積なので、重さの順はI>J>Hとなる。

(8) H～Kで同じ体積あたりの重さ（すなわち密度のこと）を比べると、重さの順（密度の大きさの順）はI>K>J>Hとなる。

(9) HとIを混ぜ合わせる割合によって、同じ体積あたりの重さを比べると、I>L>J>Hの場合とI>J>L>Hの場合とI>L=J>Hの3通りがある。よって、これだけではわからない。

4

(1) 前ばねがかたいこん虫である。

(2) カブトムシと同じ仲間になるので、さなぎの時期がある。

(3) テントウムシは、成虫のすがたで落ち葉の下に集まって冬越しをする。

(4), (5) アブラムシをかんで食べている。

(6) クロオオアリがアブラムシから蜜をもらうために、テントウムシからアブラムシを守るような行動をとる。

(7) ア：セミの幼虫    ウ：カブトムシの幼虫    エ：トンボの幼虫